

青森県立保健大学附属図書館だより

Rapport

JULY 2008

NUMBER

11

図書館長挨拶

社会福祉学科教授 入江 良平...2-3

特集 夏休みに

学生に読んでもらいたい本！ ...4-9

石鍋圭子 梅田弘子 鄭佳紅 内城絵美 根布谷綾乃

早川ひと美 平尾明美 深谷智恵子 山田典子

佐藤秀紀 橋本淳一 盛田寛明

石田賢哉 大竹昭裕 坂下智恵 長谷川真理子 増山道康

浅田豊 井澤弘美 向井友花

シリーズ

図書館を使いこなそう 第11回

“CINAHLの使い方” ...10-13

Rapport : フランス語で、関係・関連・類似点

『ラポール』は、人間同士(学生&教職員&地域住民&県民)のつながりを意味します



図書館長 就任にあたって

青森県立保健大学社会福祉学科教授
入江良平

1976年・一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了；1990-1996年・富山国際大学人文学部赴任；1999年・青森県立保健大学社会福祉学科赴任

日本トランスパーソナル心理学 / 精神医学学会理事、日本カウンセリング学会会員、日本芸術療法学会会員、日本箱庭療法学会会員

専門分野は深層心理学 ヨング理論の研究、集合的無意識の象徴の研究

大学図書館の役割は、まず第一に教育・研究活動のための学術資料を収集・保管し、その資源を利用者にとって使いやすい形で提供するということである。近代以降の知の世界はかぎりなく広い。一つの専門分野の基本的文献だけでも膨大な量になるし、その中には各種の辞典や基礎資料のようにあまりに高価で個人には手の届かないものも少なくない。図書館はそうした資料が集められている場所であり、大学における学術活動のもっとも重要な基盤の一つとされてきた。それゆえ、歴史ある総合大学の図書館などは「知の至聖所」といった趣さえあったものだ。

しかし現代では情報環境が大きく変化した。1993年に欧州原子力研究所（CERN）が初めてWWWの無料公開を発表して以来、インターネットの普及と発達によって、膨大な情報が電子化され仮想空間の中に蓄積されており、ネットワークに接続しさえすれば、誰でもいつでもどこでも（自宅からでも、ファーストフードの「モバイルゾーン」からでも）この仮想空間にアクセスし、求める情報を引き出すことができるようになった。インターネットそのものは電子商取引から一個人の私的日記にいたるまで何でもありだが、そのもともとの対象分野であった学術情報においても、アカデミズムを体現する権威ある組織だけでなく、不特定多数のユーザーが情報を随時追加してゆき、その全体はたえず増大しつつある。人類の知的遺産の電子化も世界中で精力的に進められている。しかも電子情報の検索技術をもってすれば、ユーザーは求めるものを、この見通せないほど広大な空間の中から、驚くほどわずかな時間で探し当てることができるのである。それゆえ学問の世界で、ネットワークに知を集約してしまおうという動きがみられるのも不思議なことではない。

仮想空間における情報集積がさらに進み、ネット接続のインフラがさらに整備され、検索技術がさらに向上してゆけば、大学図書館が学術的電子情報空間へのゲートウェイへと発展的解消をとげてしまうのではないかと……などという近未来SFめいた空想もちらりと頭をよぎる。分野によっては実際にそうなってしまうかもしれない。未来のことはわからない。しかし他方では、書架がずらりと並び、あちこちの机では利用者が読書や調べものや自習をしてい

るという昔ながらの大学図書館風景が消滅することは決してないだろうとも思う。私にはハードな書物・資料の集積に基盤を置く大学図書館が過去の遺物となるとは考えられない。

そんなふう感じられるのはなぜか。おそらく教育（学習）と研究が普遍としての知を志向するとしても、その営み自体がいずれも具体的な個人のものであり、個人の「いまここでの身体をそなえた実存」と不可分だという事情のためなのだろう。「空想はどこまでも走るが、ぼくの足はわずかな土地しか踏むことができぬ、永生を考えるが、ぼくはまもなく死なねばならぬ。……腹から合点する事柄はごくわずかな量であり、心から愛したり憎んだりする相手も、身近にいるわずかな人間を出ることはできぬ。それが生活の実情である」と小林秀雄は言った（「文学と自分」）。私たちの現実存在は限定されている。この限定は欠如ではなく、逆にそれこそが経験に人間的な意味を与え、充実させるものである。かぎりなく便利で、無限の拡大可能性を持つネットワーク空間にはこの限定性が欠けている。だからこそ、紙の書物の集積場所としての図書館に完全にとってかわることはできない。

書物は物理的に現前している。だから場所をとる。増えてくれば収納場所に苦慮せねばならない。そのかわり、書物は手に取ることができる。ぱらぱらとページを繰って拾い読みすることも、あるいは第一ページからじっくりと読みすすむこともできる。ここには仮想空間における非身体的な情報の伝達には

ない何か、書物の「身体性」とでも言うべきものがある。情報を直接脳に流し込むことができないかぎり、この身体性は知との応接の統合的な一部分をなしているように思える。また、書物は自分自身で閉じている。どこともつながっていない。だから参照箇所に一瞬でジャンプするというわけにはいかない。検索機能によって、いわば全文にハイパーリンクが張り渡された電子情報に比べればいかにも不便に思えるが、そのかわりそれ自体において完結的である。このことは私たちの実存の個別性と微妙に呼応しているように感じられる。

このように見てくれば、書物はそれが「不便」であるちょうどその場所で、現実の学問研究活動における個別性・身体性（いいかえれば実存の具体性）に対応しているのである。問題は書物の集積と情報ネットワークのどちらが便利であるかということのみにはとどまらない。知の普遍性・抽象性と教育研究の個別性・身体性の対立がそこにはある。

学術情報のデジタル化、ネットワーク化はこれからも進み続けるだろう。それに対応してゆくことが大学図書館の重要な役割であることは明らかだ。しかし同時に、「昔ながらの図書館風景」に象徴的に表現される、学問的営みの人間的・実存的な側面への配慮を持ち続けること、それをしっかりと守っていくこともまた、これからの図書館の重要な課題であるように思われる。



夏休みに学生に読んでもらいたい! 本

石鍋圭子先生おすすめ-----



『邂逅』
多田富雄、鶴見和子
藤原書店

914.6 | Ta16

脳卒中から生還した免疫学者と社会学者の対話。病後に新しい自己を発見していくプロセスが学者ならではの科学的かつ豊かな感性の言葉で綴られている。ヒューマンケアをめざす学生たちに一読を薦めたい。



『閉鎖病棟』
帯木蓮生
新潮社

913.6 | H14

精神を病む人びとを主人公にした小説であるが、精神科医の作者が病院の内部を患者の立場から描いていて面白い。殺人事件を扱っているが、ちょっと感動物、今の社会、人間としてまともなのはどっち?と考えてほしい。

看護 学科編

梅田弘子先生おすすめ-----



はたち
『二十歳のころ :
立花ゼミ「調べて書く」
共同製作』

立花隆、東京大学教養学部立花隆ゼミ
ランダムハウス講談社

281 | Ta13 | 1, 281 | Ta13 | 2

立花隆氏のゼミに所属する二十歳の学生さんたちが、世のさまざまな有名・無名の方の二十歳のころをインタビューし、本にまとめたものです。ゼミに参加した学生の一人は「おわりに」において、ゼミでの経験から学んだことは「見えないものを見ようとする」ことだったと述べています。いま、まさに二十歳を生きる学生のみなさんにとって、「二十歳のころ」はどんな時代でしょうか、そして将来、「二十歳のころ」をどのようにふりかえることになるのでしょうか。私も記憶を辿り、自分の「二十歳のころ」を思い起こしてみました…。

鄭佳紅先生おすすめ



『看護師の注意義務と責任 : Q&Aと事事例の解説』
加藤済仁、蒔田覚編著
新日本法規出版
492.9 | Ka86

看護業務における法律上の責任について、わかりやすく解説しています。タイトルは「看護師の…」ですが、広く医療関係者は知っておく必要がある内容です。最近、TVドラマのおかげで「ちょっと法律に興味がでてきた」という方は、さらに理解が深まるでしょう。

内城絵美先生おすすめ



『こたえはボクにある(ブッタとシツカブッタ)』
小泉吉宏

メディアファクトリー

159 | Ko38 | 1

私がこの本と出会ったのは高校の図書館でした。進路で悩んだり、迷ったり、人間関係に疲れたりした時などに読んでいました(中身は4コママンガです)。悩めるブタ(シツカブッタ)の姿を見て、笑ってしまいがちながらも自分の幸福や不幸、悩みの正体を発見することができるでしょう。人間関係や先々のことで悩んだ時、日々の生活や勉強、実習(笑)などが辛くて嫌になった時、誰かを好きになった時などに開いてみてください。ちょっと心が軽くなると思います。

根布谷綾乃先生おすすめ



『余命1ヶ月の花嫁』

TBS「イブニング・ファイブ」編
マガジンハウス

916 | To46

23歳で乳癌が発見され、24歳で亡くなった長島千恵さんの闘病生活の話です。テレビで放映されていたので、見た方も多くいるかもしれませんが。周りの人たちに支えられながら、また千恵さんも周りの人たちに感謝をしながら一生懸命生きている姿が印象に残りました。命が大切にされていなかったり、相手を思いやることができなと感じることの多い現代ですが、そのことの大切さを改めて感じました。

早川ひと美先生おすすめ



『失敗学のすすめ』

畑村洋太郎
講談社

336.17 | H41

だれでも、失敗するのは怖いことです。でも、失敗を恐れては何も始まりません。失敗してもいいじゃないですか。そこからはたくさんの方が学べます。どれだけたくさん失敗をしたか...それはどれだけたくさんの方の事を学んだかということでしょう。でも、どうすればその失敗から学ぶことができるのでしょうか。この本を読むと、失敗をどう生かすかがわかりますよ!



平尾明美先生おすすめ



『交流する身体：「ケア」を捉えなおす』
西村ユミ
日本放送出版協会
492.901 | | N84

学生の臨地実習、救急の場面から始まります。新人看護師の体験からケアという営みの限らない可能性を探っています。新人が体験することの意味づけになると思います。

深谷智恵子先生おすすめ



『在宅で死ぬこと』
押川真喜子
文春文庫 刊
492.993 | | O76

訪問看護師として在宅での看取りを支援できながら、自分の父親は在宅療養を断念せざるを得なくなったその体験に心打たれました。



『患者の孤独：心の通う医師を求めて』
柳澤桂子
草思社
490.145 | | Y53

生命科学の研究者である筆者が原因不明の痛みに悩まされ、病院を転々とし、医師の誤診や拒絶、心ない言葉に傷つきながら生きる様子は、西洋医学の限界を見せられる感じてました。

山田典子先生おすすめ



『存在の耐えられない軽さ(世界文学全集)』
クンデラ著；西永良成訳
河出書房新社
953.7 | | Ku41

私は人に本を勧めるのも、勧められるのも好きではない。なのに、何故？
たぶんクンデラの精神性に惹かれたのだと思う。ちょっと大人のエロ悲しい物語。聡明なあなたへ。

?先生おすすめ



『パパラギ：はじめて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説集』
ツイアビ著；岡崎照男訳
立風書房
944.7 | | Tu3

「パパラギ」とは、サモアの人たちから見た現代人のことです。当時、サモアの酋長であった「ツイアビ」という人が初めてヨーロッパ諸国をめぐった後に、自国のサモアの人々に演説した内容がこの本に書かれています。パパラギは毎日わざわざ家族と遠くはなれたところへ長い時間をかけて移動しなくては行けない。パパラギは自身で作り出した時計なるものによって自らの自由を奪われ、苦しんでいる。普段、何気なく過ごしている日常について、考えさせられるものがあります。私は大学生のときにこの本を読みましたが、今でも心に残る本の一つです。ぜひ読んでみてください。

佐藤秀紀先生おすすめ



『脳から見たリハビリ治療』
久保田勲、宮井一郎
講談社
493.73 | | Ku14

脳卒中により、一部の脳細胞は死んでしまう。ではなぜ、麻痺や障害が起こった身体がリハビリにより再び機能を取り戻せるのか？最新の研究により、この回復過程で、残された脳細胞が柔軟に役割や構造を変えていることが明らかになってきた。本書ではそのメカニズムを豊富なデータで示し、脳のことを考えた21世紀のリハビリ治療の考え方を解説している。

理学療法 学科編



佐藤秀紀先生おすすめ

『私たちの健康とヘルスプロモーション』

高橋浩之(千葉大学)
大修館書店



V498 | | W47

本ビデオは街頭インタビュー(あなたにとっての健康とは)から始まっている。健康とはどういう状態? なんでもおいしく食べられて、よく眠れて、風邪をひかなければ健康なのか。平均寿命が延びるにつれて、疾病の構造が結核などの感染症中心から生活習慣病中心へと大きく変わった。これからは、いかに健康に長生きするか(健康寿命)、いかに満足感を持って生活を送れるかが問題となってくる。

『健康日本 21 とヘルスプロモーション』

第1巻 健康日本 21 を支える理論とその実践』

星旦二(東京都立大学)

ジエムコ出版

V498.1 | | Ke45 | | 1



本ビデオは、長生き至上主義の「長命社会」から生涯現役の「健康長寿社会」へ、ヘルスプロモーションとは、そよ風とくらしと健康-熊本県蘇陽町における実践例、健康日本 21 とは、の4部構成となっている。健康日本 21 を支える理論とその実践「健康日本 21」を推進する上での理論的基盤、「ヘルスプロモーション」の動向を分かりやすく解説している。

『健康日本 21 とヘルスプロモーション』

第2巻 私たちの街づくり』

星旦二(東京都立大学)

ジエムコ出版



V498.1 | | Ke45 | | 2

私たちの街づくり~健康からの発想~<健康な街づくり>の実践例を、星先生の分かりやすい解説とともに具体的に紹介している。第1章:「水の都」復活宣言~グランドワーク三島の活動
第2章:ノーマライゼーションと街づくり~JHC板橋会の就労支援活動
第3章:「健康シテイ上越」2010計画の推進と行政スタイルから構成されている。

佐藤秀紀先生おすすめ



『それでも脳は学習する』

山田規敏子
講談社

916 | | Y19

本書は、脳の血管の病気によって「高次脳機能障害」という脳障害を負ってしまった整形外科医の2作目である。息子の暮らしたの一日一日がハリハピリの日々。「高次脳機能障害」と共に暮らす日々の中で、脳は成長し続ける。「壊れた脳」で生きる日常を綴る問題作である。<本文より抜粋>

橋本淳一先生おすすめ



『高次脳機能障害: どのように対応するか』

橋本圭司
PHP新書

493.73 | | H38

脳梗塞や脳出血、くも膜下出血といった脳血管障害、脳炎や交通事故などで脳を損傷したあと、さまざまな問題を引き起こす高次脳機能障害。一見、障害とはわからないため、医療や福祉の専門家でもこの障害に対する理解は十分ではない。本書はこの疾患の症状と診断、治療法について具体的に解説している。

盛田寛明先生おすすめ



『概説理学療法』

嶋田智明編集
文光堂

492.5 | | Sh36

本書は、理学療法の概説にとどまらず、保健・医療の専門職としての理学療法の本質、および、それがどのような方向に発展・拡大しつつあるかなど、理学療法の原点とその展開をわかりやすく解説している。理学療法学科の学生はもちろんのこと、他学科の学生が理学療法に興味をもち、その概要を知ろうと、本書は格好の参考書となる。

盛田寛明先生おすすめ



『ケースで学ぶ理学療法臨床思考: 臨床推論能力スキルアップ』

嶋田智明編集
文光堂

492.5 | | Sh36

本書は、問題基盤型学習(PBL: Problem Based Learning)の考え方にもとづいて、自己啓発学習プログラムを通して理学療法における問題解決能力を高めることをめざしている。実際の症例をもとに、患者の有する問題の仮説とそれを検証するための検査項目を明確にする課題、問題点の明確化、治療プログラムを立案するための課題が、国際生活機能分類(ICF: International Classification of Functioning)の視点から提示される。本書は、学生が、理学療法診断やそれを検証する技術を学び、さらにその能力を高めるうえで有益な指針(ガイド)となるに違いない。



『行動が人生を動かす: 感情の上に人生は築けない』

デーヴィット・K・レイノルズ
朱鷺書房

159 | | R29

腹が立ったとき、悲しみに会ったとき、やる気が出ないとき、あるいはまた、何かに集中しようとしても邪念が入ってくる時...など、簡単にその気持ちを良い方向にもっていくことは難しいでしょう。でも、自分の行動は自分でコントロールできます。感情のしまいどころを考えるより、まず動くこと。悩んでも結局は同じことが頭のなかをグルグルまわらただけで時間だけが過ぎ去り、自分は何も変わっていない。そんなジレンマから少しでも脱却したい方、本書は「建設的な生き方」のコツが盛りだくさんです。



石田賢哉先生おすすめ



『普通の家族がいちばん怖い：徹底調査！破滅する日本の食卓』

岩村暢子
新潮社

498.5 | I94

18歳の男の子がサンタに手紙を書く、親は子どもの夢を壊したくないという。お正月のおせち料理は子どもが食べないから作らない。親が作ってくれるから何もしない。楽しいからクリスマスはする。徹底したインタビュー調査からみえてくる現在の家族像。ここindeくる家族はごく普通の家族であろう。この本を通して、今まであったルールや建前がなぜ壊れているのかがみえてくる。

社会福祉 学科編

石田賢哉先生おすすめ



『幽霊人命救助隊』

高野和明
文春文庫 刊

913.6 | Ta47

神様の命令により、職場内のストレスや学校でのいじめなど様々な理由で自殺を考えている人々を救出する「幽霊人命救助隊」のお話。ストーリーもとても面白い。ただ面白いだけでなくリアルな現実をそこに感じます。人生の葛藤を様々な形で救出しようとする幽霊人命救助隊の姿、そして自分自身で解決に取り組もうとする人の力に感動します。



『働きすぎる若者たち：「自分探し」の果てに』

阿部真大
日本放送出版協会

366.8 | A12

介護現場で若者がどのような現状に置かれているのか、介護保険というシステムが現場にどのような影響を与えているのか。若者のやる気ややりがいに依存し、燃え尽き立ち去ると次の若者をさがす。本当にこれでいいのだろうか。今何かがおかしいのではないか。そんなことを再確認する一冊です。

大竹昭裕先生おすすめ



『裁判員制度の正体』

西野喜一
講談社

327.67 | N85

来年スタートする予定の裁判員制度についてどう考えますか。本書は裁判員制度を批判する立場から書かれていますが、この制度への賛否は別にして一度読んでみる価値はあると思います。同様に、この制度を批判する立場に立つものとして、例えば井上薫「つぶせ！ 裁判員制度」(新潮新書)があります。戦前の陪審制の様子を知るには、和久峻三の法廷推理小説「陪審15号法廷」(双葉文庫)がお勧めです。

大竹昭裕先生おすすめ

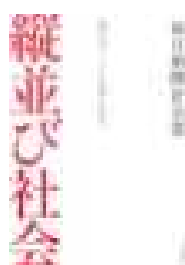


『日本国憲法誕生：知られざる舞台裏』

塩田純
日本放送出版協会

323.14 | Sh72

「ETV特集 焼け跡から生まれた憲法草案」(2007年2月10日放送)と「NHKスペシャル 日本国憲法 誕生」(2007年4月29日放送)の内容を合わせたもの。昨年、いわゆる憲法改正国民投票法も成立しました。少し、日本国憲法誕生のことも考えてみましょう。本書のほか、鈴木昭典『日本国憲法を生んだ密室の九日間』(創元社)、ペアテ・シロタ・ゴードン『1945年のクリスマス』(柏書房)もお勧めです。



『縦並び社会：貧富はこうして作られる』

毎日新聞社会部
毎日新聞社

361.8 | Ma31

さかんに取り上げられる格差社会、あなたはどのように考えますか。本書は、2005年12月から2006年7月にかけて毎日新聞に連載された「縦並び社会」シリーズをまとめたもの。ほかに、水島宏明「ネットカフェ難民と貧困ニッポン」(日テレ ノンフィクション)、堤未果「ルポ 貧困大国アメリカ」(岩波新書)、湯浅誠「反貧困 - すべり台社会」からの脱出」(岩波新書)なども読んでみたいですね。

坂下智恵先生おすすめ



『医療ソーシャルワーカー奮戦記』

大野勇夫、
上原千寿子 編著
ミネルヴァ書房

369.9 | O67

医療ソーシャルワーカー(MSW)に興味がある人はもちろん、将来MSWと共に仕事をする看護、理学、栄養学科の学生さんにもお勧めです。医療現場の中の福祉職であるMSWがどんな仕事をしているのか、チーム医療の一員となる他専門職の仕事内容を理解しておくことは、一人ひとりの支援のために、また、スムーズな連携のためにも必要なことではないでしょうか。実践を中心に書かれていますので、読みやすく、MSWの仕事をも具体的に理解しやすい本だと思います。



長谷川真理子先生おすすめ



『夜と霧(新版)』
V.E.フランクル 池田
香代子訳
みすず書房

946 | F44

本書は、ユダヤ人であり心理学者であるフランクルが、ナチスによる強制収容所における自らの体験を綴った本です。原著の初版が1947年に出版されて以降、世界的なロングセラーとして読み継がれています。収容所での絶望的ともいえる状況の中、人が人として生きることを支えるものとは？



『それでも人生にイエスと言う』
V.E.フランクル 山田邦男、松田美佳訳
春秋社
114.5 | F44

『夜と霧』の続編ともいえる本で、私が学生時代に読んで感銘を受けた本の中の一冊です。本書のテーマである、「人生にイエスと言う」とは？「それでも」という言葉がもつ意味は？ 誰も、人生の中で、一度は生きる意味について思い悩む時があるのではないのでしょうか。そんな時、皆さんにぜひ手にとって読んでいただきたい一冊です。



『キャリアを紡ぐソーシャルワーカー：20代・30代の生活史と職業観』
保正友子ほか
筒井書房
369.17 | H92

本書では、実在する20代・30代のソーシャルワーカー20名の生活史とその生き様が紹介されています。ソーシャルワーカーとはどんな人たちで、どんな仕事をしているのか。ソーシャルワーカーを目指す皆さんに、ソーシャルワーカーとしてのモデル像や成長のビジョンを示してくれる一冊です。

増山道康先生おすすめ



『人間の発見と形成：人生福祉学の萌芽』
メアリー・E・リッチモンド
杉本一義訳
出版館ブッククラブ
369.16 | R35

“What is Social Case Work?”1922の新訳です。原著はケースワークの古典であるが、現在ではバイステックに比べてあまり読まれていません。しかし、著者のケースワーク論は、当時の方面委員に受容され、現在もケア関係職や社会福祉主事のバックボーンともなっています。福祉だけでなく、健康科学を志す全ての学生に一読を勧めます。



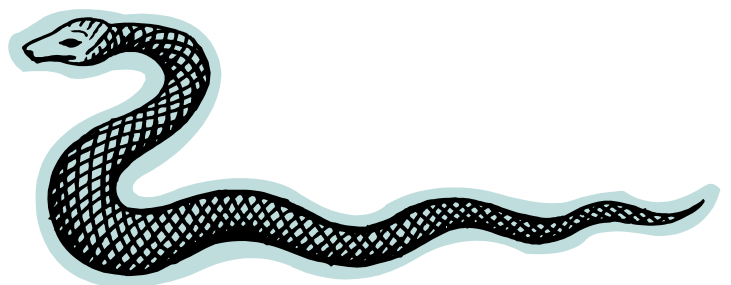
『山海経』
(著者不明) 高馬三良訳
平凡社
388.22 | Se62

「せんがいきょう」と読みます。中国の古代から言い伝えられた妖怪や珍獣を集めた書物です。日本の江戸時代の怪談話やみずきしげるの妖怪ものの原型がたくさん出てきます。夏の夜の納涼に最適です。



『博物誌』
ルナール 岸田国土訳
ポナール画
新潮社
954 | R27

蛇「長ずぎる」
動植物を端的な一言で表現している警句と、自然観察や近辺雑記のエッセイが組み合わされています。まさにフランスのエスプリが満載です。最近、新たな訳が出されていますが、ポナールには岸田の洗練された日本語がよく似合います。ポナールの挿絵も格調を醸し出しています。なお、著者は「にんじん」の作者です。





浅田豊先生おすすめ



『分子人類学と日本人の起源』
尾本恵市
裳華房

469 | O63

本書では、古代から現代までに至る人種観・人種区分の変遷、遺伝的データに基づく現代人の分布経路、我々北方モンゴロイドとオセアニアの人々との関係性などの視点について、多数の事例をまじえて解説しています。

夏休みの長く自由な時間の中で、「日本人とは何か」という切り口から、「民族とは何か」「人間とは何か」という深い問いに、想いをはせてみてはいかがでしょうか。

栄養 学科編

浅田豊先生おすすめ



『色彩療法』
テオ・ギンベル 日原もとこ訳
フレグランスジャーナル社

146.8 | G45

本書では、色の波動と速度、色彩療法と音楽療法との連携、色の心理的・生理的効果などの視点について、豊富な図表等を用いて詳しく説明しています。

本書は色や光が人間の精神・身体に与える影響、こころからだにとって心地よい視覚的景観のあり方を考えるきっかけを与えてくれるのではないのでしょうか。将来人々の健康と生活の質の向上を支える専門職者になられる4学科の学生さん、あるいは院生さん・教職員の方々にとって有意義な1冊になると期待しています。

(表紙画像の
掲載許諾期間
終了)

『少女売買：インドに売られたネパールの少女たち』
長谷川まり子
光文社

368.4 | H36

本書では、様々な取材活動を経て、少女売買の実態やホスピスに暮らす女性たちなどについて、丁寧に記されています。

現実であり解決すべき問題である少女売買を考察するにあたっては、取るべき視座として、人権・開発問題・経済・法律・宗教・教育・医療・国際関係など、多角的アプローチを必要とすると考えられます。複雑化する現代において、一つの事象に対し、その現実を正しく認識するとともに、歴史的・総合的見地等から幅広いもの見方ができる一助となればと思います。

井澤弘美先生おすすめ



『論文の書き方』
清水幾多郎
岩波書店

816.5 | Sh49

かなり古いですが現在に十分通じる内容です。特に卒業論文執筆を控えた4年生の皆さんには参考になると思います。

文章作成に自信がなくても、本書で指摘している「小悪魔の『が』」を克服するだけで、明解な文章に近づくことができるでしょう。

向井友花先生おすすめ



『生物と無生物のあいだ』
福岡伸一
講談社

460 | F82

内容は科学の本ですが、読み物としても最高です。表紙に書いてあるとおり、一度読み始めるとワクワクして続きが読みたくなり、止まりません。科学の面白さを存分に教えてくれる一冊です。



『自分の体で実験したい：命がけの科学者列伝』
レスリー・デンディほか
梶山あゆみ訳
紀伊國屋書店

402.8 | D57

自分の命をかけて真実を確かめたい、人の役に立ちたい、と考えた19世紀から20世紀の科学者たちの努力の姿が描かれています。衝撃的な実験にも体当たりで挑んだ科学者たちの勇気に、拍手を送りたくります。とても平易で読みやすいので、勉強の合間に疲れた頭のリフレッシュにどうぞ。

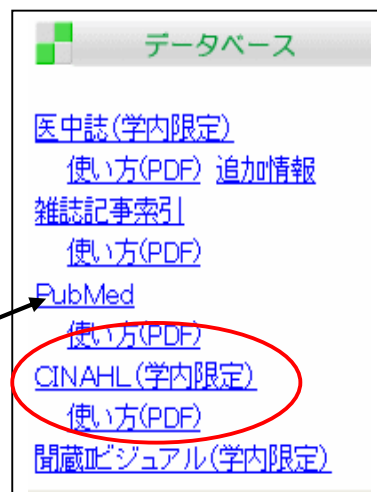
検索画面が
変わりました。

“CINAHLの使い方”

『CINAHL』とは、Cumulative Index to Nursing & Allied Health Literature の略で、「シナール」と読みます。アメリカの英語文献を中心に作られた看護領域分野のデータベースです。1982年以降の文献を調べることができます。

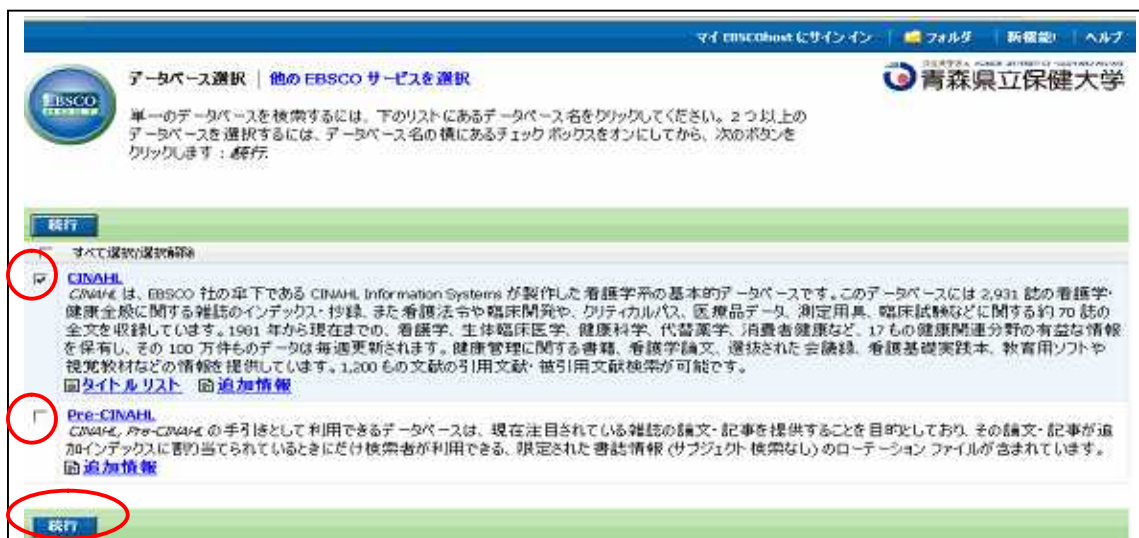
アクセスは、学内限定となります。図書館ホームページ(学内用)の『CINAHL』をクリックしてご利用ください。

便利な機能として、「検索条件の絞り込み」「シソーラス」「雑誌リストから論文を探す」「引用文献から論文を見つける」「索引(インデックス)を使って論文を探す」「印刷」などがあります。詳しい利用方法については、『CINAHL』の下にある「使い方(PDF)」で確認してください。



CINAHLの利用は
こちらから

CINAHL または Pre CINAHL を選択して、「続行」ボタンをクリックします。
 (両方を選択して「続行」をクリックすると一括で検索できます。)



検索条件に検索キーワードを入力し、「検索」ボタンをクリックします。



検索結果が表示されます。検索結果は、詳細表示することもできます。



詳細表示例



~ One Point ~

検索結果には、論文の種類が書かれています。

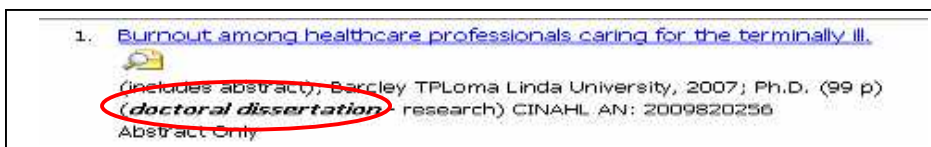
学位論文を探すときは、論文の種類が、

Doctoral Dissertation(博士論文)

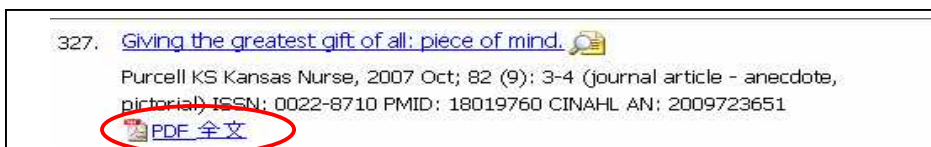
Masters Thesis(修士論文)

となっているものを見つけましょう。

博士論文の例



全文が見られるものの例



履歴検索ができます。「検索履歴/アラート」をクリックし、履歴検索したいキーワードを選択します。「検索結果を組み合わせる対象」で and, or, not のいずれかを選び「追加」をクリックします。検索条件を確認し、「検索」をクリックします。





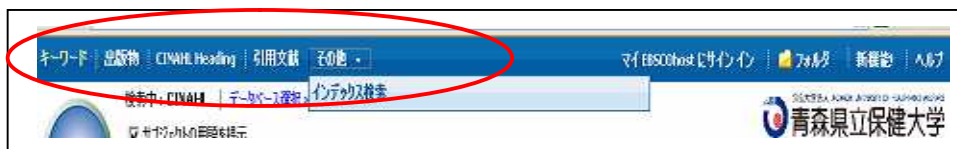
手順
and, or, not の選択

手順
キーワードの選択



手順
検索条件を確認し、
「検索」をクリック

CINAHL で利用できる便利な機能です。この機能は CINAHL でのみ利用でき、Pre CINAHL だけを利用するときや CINAHL と Pre CINAHL を一括で検索するときには利用できません。



出版物 …雑誌リストから論文を探す。
CINAHL Headings …統制語(シソーラス)で検索する。
引用文献 …引用文献から論文を探す。
(その他)インデックス検索 …索引(インデックス)を使って論文を探す。

論文を入手するには！

CINAHL で検索し、論文が掲載されている雑誌名と巻号・ページ数・出版年がわかったら

ProQuest Health and Medical Complete で、雑誌名を検索

ヒットすれば、本文閲覧可能

ヒットしなかった場合

蔵書検索で、雑誌名を検索

ヒットすれば、図書館で閲覧可能

ヒットしなかった場合

複写依頼申込

論文を取り寄せる

図書館よりひとこと

ラポールもついに第 11 号を発行する運びとなりました。紙面のデザインも一新し、さらに魅力ある図書館広報誌として生まれ変わりました。

今回の特集は「夏休みに学生に読んでもらいたい本！」です。夏休み前にお届けするため、発行を早めました。推薦本は 21 名の先生方から硬軟取り揃ったラインナップとなっています。図書館 1 階展示コーナーに配架してありますので、この機会にぜひ読んでみてください。



青森県立保健大学附属図書館だより ラポール 第 11 号

平成 20 年 7 月 発行

発行者 青森県立保健大学附属図書館

〒030-8505 青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

電話 017-765-2011

URL <http://www.uhw.ac.jp/>
